

カコボラ



水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

25

宮崎 勝己

海産動物最強の毒生物

海の動物の中には、身を守ったり敵を攻撃したりする「毒」を持つものがある。白浜の近海でもフグ類、ゴンズイ、イラ

強の毒を持つものは何か?。その答えはかなり意外な動物で、巻き貝類の「カコボラ」と六放サンゴ類の「イワスナギンチャク」である。

カコボラの唾液(だえき)腺は「エコトキシン」という強力な毒を持つ。イワスナギンチャクには

「パリートキシン」という毒が卵に高濃度で含まれている。どちらも1匹でマウス数万匹を死に至らしめる毒性を持つことが実験で明らかになっている。猛毒として知られるフグのテトロドトキシンで数千匹程度なので、強さが一けた違うのだ。

モ、カツオノエボシ、ヒョウモンタコ、ニセクロナマコなどが強力な毒を持つ動物として挙げられる。では海の動物の中で最も猛毒を持つカコボラ(水槽番号306)

「パリートキシン」という毒が卵に高濃度で含まれている。どちらも1匹でマウス数万匹を死に至らしめる毒性を持つことが実験で明らかになっている。猛毒として知られるフグのテトロドトキシンで数千匹程度なので、強さが一けた違うのだ。

イワスナギンチャクは串本より南の暖かい海に生息し、白浜水族館での飼育記録はない。それに対しカコボラは、房総半島以南に広く分布し、白浜の磯では決して珍しい貝ではない。白浜水族館でも、巻き貝の展示水槽ではかのホラ貝の仲間と

ともに普通に展示している。 別名「ミノボラ」とも呼ばれ、刺し身や酒蒸しで食されることがあるが、刺し身の場合は唾液腺をきれいに取り除かないと、大変なことになる。「刺し身をかんだ瞬間』ばちっ』と袋が弾けたよ

(京都大学講師)

うな感覚があり、一瞬にして口から胃まで火を食べたように熱くなった。これは知人の体験だ。幸いエコトキシンは熱に非常に弱く、加熱して調理すれば、唾液腺があっても大丈夫である。しかし、肉食性巻き貝の多くは、いろいろな毒成分を持つことが知られており、中には熱に強い成分もあるので注意が必要

だ。 海洋生物の毒について はあまり研究が進んでおらず、カコボラの毒についても、正体が明らかになったのは最近のこと。今後、意外な動物から、さらに強力な毒が新たに 見つかる可能性もある。